

スーパーストリーム株式会社 新製品の開発工期を25%削減し 迅速な市場投入を実現

経営基盤ソリューション「SuperStream-NX（会計・人事給与）」の刷新により、「日本発グローバル企業」のビジネスを強力に支援

日本国内の中堅・大手企業を中心に、累計で8,000社（2017年3月末時点）を超える導入実績がある「SuperStream」。多くのユーザを抱える同社のシステムでは会計・人事給与システムのメジャーバージョンアップを行うことは簡単ではありません。特にユーザの1割以上が日本国内で上場しており、さらに、フォーチュン500に記載されている企業も利用している製品の舵取りは非常に難しくなります。

スーパーストリーム株式会社（以下、スーパーストリーム）が提供する「SuperStream（会計・人事給与システム）」は1995年6月の販売開始以来、既に20年以上経過している製品です。同製品は2017年6月に最新バージョンである経営基盤ソリューション「[SuperStream-NX](#)」のユーザインタフェースを、7年振りに刷新する必要があります。そして、このプロジェクトでは着手開始から約24ヶ月以内にVer.2.0をリリースするという目標が打ち立てられたのです。

このアグレッシブなプロジェクトにおいて、スーパーストリームでは、インフラジスティックスが提供する[Infragistics Ultimate UI for WPF](#)と[ReportPlus Embedded](#)を開発ツールに採用することを決断しました。その結果、当初の予定を6ヶ月前倒しする形で最新バージョンである「SuperStream-NX Ver.2.0」の提供を開始することができました。

「ReportPlus Embeddedの機能は約3ヶ月で組み込むことができました。 その際、インフラジスティックスのサポートチームから提供されたサンプル コードはとて有用なものでした」

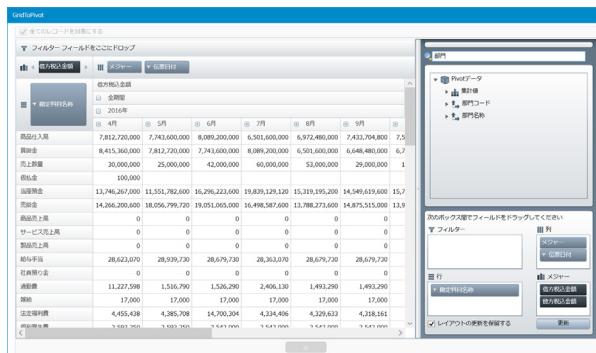
スーパーストリーム株式会社 企画開発本部 プロダクト開発部 テクニカルサポート課 課長 松井 孝司 氏

ビジネス要件の変化をサポート

今回の刷新は、単純なメジャーバージョンアップではなく、より戦略的なものでした。「特に日本本社と海外子会社が会計システムの共通基盤としてSuperStream-NXを導入することで、IT投資費用を抑えながらも海外事業拡大を行うためのビジネスを強力に支援することを目指していました」と山田氏が刷新の目的のひとつについて言及しています。

1998年からスーパーストリームに在籍し、同社の開発チームを率いている山田氏は、このプロジェクトにおいてフルスクラッチで開発することが困難であるということを理解していました。そこで、米国に本社があり、約30年に渡ってUIコンポーネントを提供してきたインフラジスティックスと協業することで、Infragistics Ultimate UI for WPFが提供しているWPFコンポーネントを活用した製品開発をスタートさせました。

開発において同社は、製品に付属するサンプルコードを活用し、グリッドの複数行レイアウトをはじめとした、さまざまな機能をすばやく実装しました。また、インフラジスティックスの開発サポートサービスを活用しながら迅速に課題解決を行うことができました。結果、[データグリッド](#)以外に、[カレンダー](#)、[ピボットグリッド](#)、[プロパティグリッド](#)、[リッチテキストエディター](#)、[ドラッグアンドドロップフレームワーク](#)、[Excelフレームワーク](#)など、多くのコンポーネントが「SuperStream-NX Ver.2.0」には組み込まれています。



Excelのピボットテーブルを再現しクロス集計を実現

jp.infragistics.com



また、リリースまでの期間短縮を実現しながら、会計や人事給与などバックオフィス業務をサポートする機能を当初の計画以上に盛り込むこともできたのです。



スーパーストリーム株式会社
取締役 CTO
山田 誠氏

スーパーストリーム 取締役 CTOの山田 誠氏は「SuperStream-NX Ver.2.0」では、UIの近代化やMS-WPFの採用をするにあたり、SuperStreamで使用するUI/UXコンポーネントの多くをインフラジスティックスのライブラリに置き換えることを決断しました」と語っています。

さらに、山田氏は「今回の刷新では、これまでユーザやパートナーからご要望いただいた数多くの機能を新たに実現しています。インフラジスティックスが提供するUIコントロールライブラリを活用することで、当初計画のスケジュールを大幅に短縮し、1年半という期間で製品をリリースすることができました。加えて、当初の計画にはなかった分析機能をSuperStream-NX Ver.2.0 に組み込むことができたのです」と、導入の効果を述べています。

山田氏はインフラジスティックスが提供している入力やグリッドなど、様々なコントロールを活用した画面について、「データの表示レイアウトでは、フラットかつユーザーフレンドリーなものを目指し、ユニバーサルなデザインを実現することで、シンプルかつエレガントなレイアウトを提供できたと自負しています。」と述べています。

開発チームの一員として、ITアーキテクトを務める、企画開発本部 プロダクト開発部 テクニカルサポート課の佐藤 淳氏は新たに追加された便利な機能として、Enterキーを押下せずにセル間のカーソル移動ができる「カーソルスキップ」という機能を挙げています。この機能は、仕訳データ入力時のテンキー入力が可能になるので入力業務の作業効率を向上させます。



スーパーストリーム株式会社
企画開発本部
プロダクト開発部
テクニカルサポート課
ITアーキテクト
佐藤 淳氏

また、佐藤氏は「フリーレイアウトに対応した仕訳入力画面や、高度なグリッド技術を搭載したレポート機能などは、とても便利になり高い評価を頂いています。」と、ユーザからの評価を述べています。

更に、「SuperStream-NX Ver.2.0」には、インフラジスティックスのCEOである、ディーン・ガイダ自らが、スーパーストリームを訪問し製品の導入を働きかけた、データ可視化BIツールReportPlus Embeddedが、アプリケーションの一部として組み込まれています。ReportPlus Embeddedは、配色やフォントなどカスタマイズ可能なテーマを備えるダッシュボードを提供しており、素早く、簡単にデータを可視化する機能をアプリケーションに構築できます。そして、ユーザは最新のデータや大規模なデータセットからトレンドを把握し、ビジネス上の意思決定を行うための判断材料を視覚的に確認することが可能になります。インフラジスティックスが提供するReportPlus Embeddedを製品に組み込むことにより、「SuperStream-NX Ver.2.0」においても、堅牢なBIデータ処理とデータ可視化機能を標準機能で提供し、新たな製品価値を生み出すことができたのです。

今回のプロジェクトは、2015年の夏に企画が始まり、当初の完了時期は2018年と予想されていましたが、インフラジスティックスの開発ツールを活用することで開発チームの作業効率が向上し、結果、予定を6ヶ月早めた形で2017年6月1日に「SuperStream-NX Ver.2.0」がリリースされました。

「今回、開発スケジュールを前倒しでただけでなく、予定以上の機能を実装することができました」と佐藤氏が所属する同テクニカルサポート課の課長である松井 孝司氏が開発プロジェクト全体を振り返ります。

ビジネスインテリジェンスを組み込むことで 分析能力の向上を実現

松井氏は「弊社のユーザは、標準機能である管理会計機能を使用しつつ、ReportPlus Embeddedの機能により、会社全体だけでなく複数の組織において、事業区分やプロジェクトコードなどセグメントを軸としたBI分析が行えます」と述べています。



スーパーストリーム株式会社
企画開発本部
プロダクト開発部
テクニカルサポート課
課長 松井 孝司 氏

また、日本本社の経営者が海外子会社の財務状況を素早く把握することで、グループ全体での経営の意思決定が迅速に行えます。このデータは簡単に可視化し、外部委託により計算された結果と比較することもできます。

「ReportPlus Embeddedの組込みは最小限の実装のみで簡単かつ、迅速に行うことができました。また、ソフトウェアの機能改良や刷新を行う場合は開発期間の短縮が勝負です。最小限の実装で済むということは大きな手助けとなりました」と松井氏は述べています。

ReportPlus Embeddedを「SuperStream-NX Ver.2.0」に組み込むという決定は開発後期に行われましたが、シンプルなインテグレーション方法とインフラジスティックス・ジャパンのサポート担当者が本社開発部門と密に連携することで開発期間を遅延させることなく、初期の目標を達成することができたのです。

「ReportPlus Embeddedの機能は約3ヶ月で組み込むことができました。その際、インフラジスティックスのサポートチームから提供されたサンプルコードはとても有用なものでした」と佐藤氏は、製品そのものだけでなく、提供される技術サポートサービスについても大変満足しています。さらに、松井氏は、「ReportPlusに付属するサンプルダッシュボードをもとに、このソリューションで実現できる数多くのアイデアが浮かんできました」とも述べています。



ReportPlus Embedded が組み込まれたダッシュボード

グローバル連携の強化

経理業務の透明性とコーポレートガバナンス向上というニーズに対応するため、「SuperStream-NX Ver.2.0」では、言語や会計制度など各国の状況に合わせた環境作りが可能な「多言語対応フレームワーク」を提供しています。また、表示言語として日本語と英語を提供しているため、世界各地の関係子会社でもクラウド形式で簡単に利用することができ、更に、日本本社と海外子会社が同じデータを見ながら、連動した操作を行うことが可能になっています。

さらに新バージョンではレポート機能を、インフラジスティックスWPFコントロールとReportPlus Embeddedのシナジー効果により大幅に向上しました。佐藤氏はこのレポート機能について、「今回刷新されたSuperStream-NX Ver.2.0ではレポート機能として、Excel Report、Pivot Report、ReportPlus、Excel差込、4種類の形式をご用意しています。作成されたレポートはExcelやPDF形式で出力することができるため、蓄積された会計データの有効活用や生産性の向上に寄与できると考えています。この全ての機能においてインフラジスティックスのライブラリが使用されています」と特長を説明しています。

サンプルから想起されるアイデア

さらに、開発時のエピソードとして、松井氏はInfragistics Ultimate UI for WPFで提供されるサンプルブラウザを活用することにより、様々な機能のアイデアが浮かんできたと感じています。

「グリッドコントロールで提供されている様々な機能により、旧バージョンでは実現が難しかった機能を実装することができました。開発コストと限られた開発期間を考えると、インフラジスティックス社のUIライブラリを利用しなければ、このタイミングでの刷新は実現できなかったかもしれません。また、ReportPlus Embeddedの組み込み時と同様に、インフラジスティックス社の技術サポートチームから提供されるサンプルコードは開発中の課題解決にあたるための時間を大幅に節約することができたのです」と開発期間を短縮しながら様々な機能を追加できた理由について改めて、インフラジスティックスが提供する製品とサポートの効力について言及しています。

山田氏は今回、大幅な刷新を実現したSuperStream-NX Ver.2.0の特長は、経営の視覚化、快適な操作性、柔軟なレポートや帳票の作成、Internet of Accounting(IoA)の4点を挙げています。同社はすべてのユーザに対しSuperStream-NX Ver.2.0への移行を促す予定であり、更に、2020年までに累計導入社数1万社を目指しています。締めくくりにして山田氏は、「SuperStream-NX Ver.2.0は会計と人事管理に革命をもたらすと確信しています。弊社は今後もAI、FinTech、RPAなど、IoAサービスを増やしていきたいと考えています。また、インフラジスティックスとの協業により、次年度以降、弊社がモバイルに対応したソリューションを製品群に加えていくことを楽しみにしています。」と今後の展望について語っています。

複数行レイアウトをサポートするグリッド

Infragistics Ultimate UI for WPFおよび ReportPlus Embeddedについて

Infragistics Ultimate UI for WPFは業務アプリケーションの構築に特化したWPF対応UIコントロールセットです。大量データに対応するチャートや高機能グリッドなど、業務アプリケーションで必要とされる機能を実装したコントロールを提供しています。

ReportPlus Embeddedはデータの可視化を行い、ダッシュボード構築機能を実用アプリケーションに組み込める、ダッシュボードソリューションです。ダッシュボードをデザインする際には、プログラミングの知識を必要としません。また、Excel、CSV、SharePoint、SQL Server、Oracle、Twitter、Facebookなど約30種類のデータ接続をサポートしており、社内、社外に点在するデータを1か所に集約させ可視化することができます。詳細につきましては製品ページをご確認ください。

インフラジスティックスについて

インフラジスティックスは、アプリケーションの設計と開発、データの可視化と分析、コラボレーションを促進させるツールやソリューションを世界的なマーケットリーダーとして提供しています。その中でも、インフラジスティックスが提供する企業向け開発ツール製品「Infragistics Ultimate」は全世界において200万人以上の開発者が利用しています。この開発ツール製品を使用することで、開発者はクラウド、Web、Windows、iOS、Androidなどさまざまなプラットフォームでアプリケーション開発を行ったり、素晴らしいユーザーエクスペリエンスを実現するためのプロトタイプを高速に構築したりできます。さらに、「ReportPlus」、「SharePlus」に代表されるエンタープライズモビリティ製品では、ビジネスユーザー向けにデータの可視化や分析、コラボレーション機能を提供しています。

製品に関してのお問い合わせ: インフラジスティックス・ジャパン株式会社 営業部
Email: JapanSalesGroup@infragistics.com
TEL: 03-6892-8034
https://jp.infragistics.com
本事例は2017年7月時点のものです